

2024年度（公社）日本地すべり学会 事業報告

1. 総務部

(1) 行事

① 通常社員総会の開催

- ・ 日時：2024年6月7日 11時00分～12時00分
- ・ 場所：TKPガーデンシティ渋谷 1階 ホールB
- ・ 参加者数 34名（会場 16名、オンライン 18名）、委任状提出 26名、書面議決提出 4名（計 64 議決権）
- ・ 社員総会は、ハイブリッド形式で行った。

② 理事会の開催

- ・ 2024年6月7日、9月17日、2025年3月7日（ハイブリッド形式）
- ・ 2024年5月10日、11月29日（オンライン形式）
- ・ 2024年7月22日（電磁的記録による理事会審議）
- ・ 理事会は、ハイブリッド、オンライン、電磁的記録による形式で行った。

③ 執行部会の運営事務

- ・ 2024年4月30日、5月7日、5月21日、6月20日、7月9日、8月29日、10月31日、2025年2月25日
- ・ 執行部会は、ハイブリッドまたはオンライン形式で行った。

④ 代議員選挙の運営事務

- ・ 選挙管理委員会：（第1回）2024年12月18日、（第2回）2025年3月24日
- ・ 選挙公示：2025年1月8日、投票締め切り：3月16日、開票：3月24日
- ・ 当選者の決定・当選者の公示：2024年3月27日

⑤ 表彰委員会の運営事務

- ・ 2024年4月30日（オンライン形式）

(2) 庶務

- ・ 社員総会、理事会及び執行部会に係る議事資料及び議事録の作成
- ・ 規則、細則の改訂
2024年9月17日 理事会：代議員選挙細則（役員への就任の改訂）

(3) 財務

- ・ 予算執行状況の確認
- ・ 決算書及び予算書の作成

(4) 広報

- ・ HP 内容の更新およびメーリングリストによる情報発信
- ・ 対外活動にかかる調整

(5) 部会・その他

- ・ 2024年6月20日 総務部会（オンライン形式）総務部 2名、理事 1名
- ・ 2024年7月29日 若手交流に関する打合せ（オンライン形式）理事 8名、支部関係者 1名
- ・ 2024年8月7日 支部長連絡会（オンライン形式）支部関係者 9名、執行部 3名
- ・ 2024年9月19日 支部長連絡会（対面形式）支部関係者、執行部

2. 事業計画部

(1) 第 63 回研究発表会及び現地見学会の開催

- ・研究発表会は 2024 年 9 月 17 日～20 日にかけて仙台国際センターを会場とした対面方式にオンライン配信を加えた形で開催。意見交換会はホテルメトロポリタン仙台で実施。
- ・参加者数：県民講演会 200 名，研究発表会 607 名（現地参加名 560 名、オンライン参加 47 名）
意見交換会 402 名，現地見学会 113 名
- ・発表数：口頭発表 132 件、ポスター発表 45 件
- ・特別講演：9 月 18 日に 1 件の講演を実施
- ・県民講演会：9 月 17 日に 2 件の講演を実施
- ・現地見学会：9 月 20 日に 3 コースで実施
- ・新技術展示セッション：40 ブース（38 社）の展示
- ・若手優秀発表賞の審査を実施（受賞者数：口頭発表部門 14 名，ポスター発表部門 2 名）

(2) 2024 年度シンポジウムの開催

- ・2024 年 6 月 7 日に「令和 6 年能登半島地震で引き起こされた地すべり—能登半島で発生する地震のメカニズムと斜面変動の特徴—」を TKP ガーデンシティ渋谷およびオンラインによるハイブリッド開催
- ・講演数：6 件
- ・参加者数：186 名（会場 74 名・オンライン 112 名）

(3) 部会の開催

- ・日 程：2024 年 4 月 15 日、7 月 12 日、9 月 19 日、10 月 28 日、12 月 13 日、
2025 年 2 月 17 日
- ・2025 年度シンポジウムの準備
日程、開催方法、テーマ、話題、進行の検討
- ・第 63 回研究発表会の準備と総括、第 64 回研究発表会（奈良大会）の準備
日程、開催方法、予算、運営、講演集、若手優秀発表賞の検討

3. 編集出版部

(1) 日本地すべり学会誌編集委員会

- ①編集委員会の開催 2024 年 4 月～2025 年 3 月まで 12 回開催（月 1 回、全てオンライン会議）
- ②日本地すべり学会誌 Vol. 61. 3～6、Vol. 62. 1～2 計 6 号の発行
- ③特集号の企画・発行
 - ・61(4)特集号「日本地すべり学会に求められる社会貢献」
 - ・61(6)特集号「九州・沖縄地域の地すべり、崩壊に関する調査、研究、対策と防災」※当初予定していた 62(2)特集号は応募原稿が無く、一般号に振り替えた
- ④シリーズ等の企画・連載
 - ・シリーズ：「新用語集 地すべりキーワード 101」の連載継続
 - ・シリーズ：「地すべり探訪」の連載継続
 - ・国際部によるフォーラムの定期掲載
 - ・賛助会員による「わが社の技術」の継続
- ⑤日本地すべり学会誌電子ジャーナル(J-stage)の刊行
- ⑥技術報告賞および査読者賞の候補者の推薦

⑦投稿規定等の改訂

- ・ 文言の統一、文章の簡潔化、新投稿システム Editorial Manager への対応
- ・ 上の修正を英語版にも適用

(2) 出版委員会活動

- ① Landslides in Japan 改訂作業への協力
- ② 出版企画の審査（出版企画の新規申請なし）

4. 研究調査部

(1) 研究助成

- ・ 2024 年度の助成案件は以下の 5 件である。
 - ・ 埋もれ木の年代測定に基づく歴史的な大規模土砂災害の再検証：池口崩れの事例 代表 山田隆二
 - ・ 積雪地域に存する地すべりの活動に影響を与える地下水のかん養域の特定と効果的な排水トンネル工の配置について 代表 楠本岳志
 - ・ 地下水排除工のスライム付着防止・除去に資する「黒色物質」の作用メカニズム 代表 渡部直喜
 - ・ インテグリティ試験を用いた地すべり抑止杭健全度評価の試行 代表 吉澤剛禎
 - ・ 2024 年能登半島地震による若山川上流域の地すべりの活動評価 代表 大丸裕武

(2) 地すべり・土石流災害調査報告会

以下のようにオンラインで開催した。

開催日時：2024 年 11 月 29 日 15:00～17:00

オンライン（Zoom を利用）

参加人数：204 名

プログラム：以下の通り。

開会あいさつ 古谷元（日本地すべり学会研究調査部長・富山県立大学）

調査報告 司会：柴崎達也（国土防災技術（株））、古谷元（富山県立大学）

1) 2024 年 7 月下旬の豪雨による山形県庄内・最上地域における土砂災害の概要

発表：本山功（山形大学）

2) 2023 年静岡市諸子沢で発生した大規模地すべりの移動状況

発表：大森風生（国土防災技術（株））

3) 能登半島で 2024 年に発生した地震・豪雨複合型災害の実態

発表：大丸裕武（石川県立大学）

総合討論 司会：小安浩理（北海道立総合研究機構）

(3) 研究委員会の活動

2024 年度は以下の研究委員会活動を実施した。

- ① 地震時地すべり研究委員会（代表：土井一生）
- ② すべり面および移動体の物質科学・構造研究委員会（代表：山崎新太郎）
- ③ すべり面に作用する地下水ポテンシャルに関する研究委員会（代表：渡辺修）
- ④ 計測変位に基づく地すべり防止工事計画論研究委員会（代表：萬徳昌昭）

2025 年度の新規活動テーマの募集を行った。

(4) 研究調査部会

メールで報告・検討・審議を実施した。

- ① 報告
 - ・研究調査部員の交代について（2024年5月1日）
 - ② 検討
 - ・能登半島地震関係の研究助成について（2024年5月1日）
 - ③ 審議
 - ・研究助成の活動報告書について（2024年4月4日）
 - ・研究助成新規案件の採否について（2024年5月1日）
 - ・研究助成継続案件の採否について（2024年5月25日）
 - ・研究助成追加（2024年能登半島地震関連）案件の採否について（2024年9月2日）
- (5) 2024年能登半島地震に関する対応
- 日本地すべり学会能登半島地震調査団を結成し、現地調査を実施した。
- ① 先遣調査（2024年2月11～12日） 2名参加（（公社）砂防学会と共同で実施）
 - ② 2次調査（2024年7月20～21日） 8名参加（1班）
 - ③ 3次調査（2024年11月8～10日、11月16～18日、11月18～19日）31名参加（3班）

5. 国際部

(1) 2024年度会議

オンライン形式または対面とオンラインを組合わせたハイブリッド形式の会議とした。

- ① 第1回会議 2024年7月30日～8月3日（オンライン：11名出席）
 - ・ICL (International Consortium on Landslide)/IPL (International Programme on Landslides)における研究プロジェクト募集等（審議）
 - ・地すべり学会研究発表会における英語オーラルセッションの座長・副座長の決定（審議）
 - ・地すべり学会誌に掲載の国際部 Forum の原稿執筆当番（審議）
 - ・ベトナム ITST（ベトナム交通省 交通科学技術研究所）所長への日本地すべり学会会長交代の挨拶状送付について
 - ・第63回（2024年度）研究発表会（仙台）に合わせた国際部第2回会議の開催（報告）
- ② 第2回会議 2024年9月20日（ハイブリッド：17名出席）
 - ・海外研究者による Web 講演会について（審議）
 - ・地すべり学会誌に掲載の国際部 Forum の原稿執筆当番の確認（審議）
 - ・ICL 北東アジアネットワーク活動報告作成について（審議）
 - ・国際部の活動の活性化について（特に留学生の入会促進について）（審議）
 - ・台風11号に伴うベトナム被害にかかる募金活動について（報告・審議）
- ③ 第3回会議 2025年2月10日（オンライン：11名出席）
 - ・地すべり学会誌に掲載の国際部 Forum の原稿執筆当番（報告・確認）
 - ・海外研究者による Web 講演会について（報告・審議）
 - ・ICL-KLC2024 会議（報告）
 - ・能登半島地震地すべり災害の Landslides 誌への投稿(Recent Landslides)について（審議）
 - ・国際部 2025年度の事業計画と予算案（審議）

(2) 活動内容

- ① WLF7 (World Landslide Forum 7) の開催国の台湾からインドへの変更について ICL 事務局からの緊急的な意見照会に対し、国際部長から承諾を返答した（4月8日）。

- ② 地すべり学会誌 2024 年 5 月, 7 月及び 2025 年 1 月号の「フォーラム／国際部」で, Landslides 誌に掲載の論文を紹介した。
- ③ 研究発表会で英語特別セッションを 2 コマ開催し, 留学生を中心に計 10 名の発表があった (9 月 19 日)。
- ④ 檜垣部員と廣田部員が ICL/KLC (Kyoto Landslide Commitment) に参加して情報を収集するとともに, BOR (Board of Representative; 定例運営会議) で意見を交換した (京都大学; 11 月 4~7 日)。
- ⑤ 海外研究者 (イタリア・Research Institute for Geo-Hydrological Protection, Massimiliano Alvioli 博士) の学術講演をオンラインで開催した (Alvioli 博士を含め, 最大で 31 名の参加; 2025 年 1 月 10 日)。

(3) その他の継続審議課題の検討

- ・新たな国際会議の企画、運営支援の可能性
- ・日本地すべり学会の出版物の ICL 経由の宣伝の可能性
- ・「斜面对策技術国際化委員会」との連携

6. 表彰委員会

- (1) 学会賞 (論文賞・技術報告賞・査読者賞・研究奨励賞・谷口賞・国際賞・その他の賞) の審査
表彰委員会 (2024 年 4 月 30 日) にて審議し、以下のように候補者を決定
 - ・技術報告賞：松浦純生
 - ・研究奨励賞：大澤光
- (2) 理事会へ表彰委員会の審議結果を報告し審議：2024 年 5 月 10 日
- (3) 研究発表会の表彰式で表彰状授与：2024 年 9 月 18 日
- (4) 2025 年度の候補募集
 - ・会員向けメール、学会誌 (Vol. 61、No. 6)、及び学会 Website で推薦公募
 - 締め切り：2025 年 3 月 1 日

7. 解説委員会

災害発生時のマスコミ対応や一般市民からの問合せなどとして、2024 年度は 2 件の対応を行った。

- ・2024 年 8 月 2 日~7 日 (主たる対応者：落合博貴委員)
- ・2025 年 4 月 26 日 (主たる対応者：富田陽子委員)

8. 選挙管理委員会

(1) 役員選挙の報告

- ・2024 年 1~2 月に実施した役員選挙結果を、2024 年 6 月 7 日の社員総会にて報告

(2) 代議員選挙の実施

- ・2025 年 2~3 月に、2025~2026 年度の代議員を選任する選挙を実施した。

投票率：56.3% (前回代議員選挙の投票率：58.1%)

- ・選挙管理委員会

選挙実施準備：2024 年 12 月 18 日

開票：2025 年 3 月 24 日

9. 斜面对策技術国際化委員会

成果品原稿に関する推敲部会を以下の日程で合計6回開催した。

- (1) 第32回推敲部会(Web)：2024年4月22日～23日
- (2) 第33回推敲部会(Web)：2024年5月27日～28日
- (3) 第34回推敲部会(Web)：2024年6月18日～19日
- (4) 第35回推敲部会(Web)：2024年9月11日～12日
- (5) 第36回推敲部会(Web)：2024年10月16日
- (6) 第37回推敲部会(Web)：2024年11月20日

その他、2024年9月の研究発表会（仙台大会）では本委員会から特別セッション「日本の斜面对策工の歴史」を提案し、本委員会の成果に関して4編の口頭発表とその後の討論を行った。

10. 能登半島地震災害対応委員会

2024年1月1日16時10分に発生した能登半島地震により、石川県の能登地方から富山県、そして新潟県にかけて甚大な地盤災害が多数発生した。これらの災害を受けて、日本地すべり学会は、関係する諸機関と連携して、能登半島地震による土砂災害・地すべりや地盤変状の発生状況を把握し、そのメカニズムを解明するための研究活動を行うこととした。また中山間地における、大規模地震による土砂災害・地すべりを防止するための方策を検討し、これらの研究活動により、今後の大規模な地震による土砂災害・地すべりや地盤変状による災害を防ぐことを目的として活動した。活動は2024年度から2年間の計画である。

上記の目的の下に以下の活動を実施した。

(1) 委員会の開催

- 第1回：2024年8月28日 13:00～14:30 仙台国際センター
委員会の活動の基本方針の検討
- 第2回：2025年1月28日 13:00～17:00 日本工営株式会社本社
委員会成果に向けた活動方針
現地調査報告

(2) 幹事会（Web）の開催

- 第1回：2024年8月23日
- 第2回：2024年9月11日
- 第3回：2024年10月29日
- 第4回：2024年12月23日
- 第5回：2025年1月22日
- 第6回：2025年2月20日
- 第7回：2025年3月17日

また研究活動の推進のための研究テーマを設定し、各々のテーマに対する部会を立ち上げる準備を行っている。

また2024年度の本委員会及び学会現地調査団の活動報告のために、2025年6月頃に活動報告会を開催すべく、準備を進めている。これは外部にも広く公開する予定である。

11. 北海道支部

(1) 総会

- ・ 対面とオンライン投票併用による審議
- ・ 審議の日程：2024年4月26日
- ・ 投票者：32名(承認32名、否認：0名)

(2) 特別講演会

- ・ 日 時：2024年4月26日
- ・ オンライン併用による開催
- ・ 参加者：113名
- ・ 特別講演：「GISを用いた地すべり・斜面崩壊の分析について」
(国土地理院 地理地殻活動研究センター 地理情報解析研究室 岩橋純子 氏)

(3) 第1回運営委員会

- ・ 日 時：2024年7月16日
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参加者：28名
- ・ 会議内容：2024年度事業計画・実施状況、予算、会員状況、本部動向、その他

(4) 第2回運営委員会

- ・ 日 時：2025年2月3日
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参加者：25名
- ・ 会議内容：2024年度事業・決算見込み報告、2025年度事業計画・予算(案)、本部動向、その他

(5) 5学会支部連絡会

- ・ 日 時：2025年1月17日 13:00～15:00
- ・ 開催形式：オンライン
- ・ 参加者：9名
- ・ 会議内容：各支部（土木学会、砂防学会、地盤工学会、農業農村工学会、日本地すべり学会）の2024年度報告および2025年度計画・今後の連携に関する意見交換

(6) 巡検部活動

- ・ 日 時：2024年9月6日
- ・ 見学地：新桂沢ダム、新桂沢ダム貯水池地すべり、三笠ぼんべつダム、三笠博物館
- ・ 案内者：菅野 裕也 氏（北海道開発局札幌開発建設部幾春別川ダム建設事業所）
伊東 秀規 氏（北海道開発局札幌開発建設部幾春別川ダム建設事業所）
唐沢 興希 氏（三笠博物館）
安元 和己 氏（株式会社ドーコン）
岩間 倫秀 氏（日本工営株式会社札幌支店）
- ・ 参加者：37名（うち案内者5名、運営委員6名）
- ・ 内容：直轄ダムとして初めて同軸嵩上げを行った桂沢ダムの堤体内部の新旧境界の観察
原石山の母材としてのゾーン分けや三笠ぼんべつダムの施工現場の視察
新桂沢ダム貯水池地すべり対策箇所の見学とボーリングコアの詳細観察
三笠博物館の見学

(7) 広報部活動

広報誌作成をはじめとした、各種広報活動（通年）

(8)技術普及部活動

「技術講習会」

- ・日時：2024年8月9日
- ・開催形式：対面、若手の会との共催
- ・講師：本間 宏樹氏（応用地質（株））
永井 啓資氏（大地コンサルタント（株））
中鶴 真也氏（北海道土木設計（株））
石田 博英氏（防災地質工業（株））
佐々木 祐一氏（北海道三祐（株））
- ・参加者：54名（うち運営5名）
- ・内容：地すべり調査の初学者を対象として、地すべり機構解析や安定解析・対策工の検討についての解説と実技を行い、若手の会より対策工選定の実例紹介を実施した。講習会後には意見交換会を開催した（参加者30名）。

(9)シニア会の活動

①シニア会技術交流会（第6回北海道ランドスライド倶楽部）

- ・日時：2024年8月28日 14:00～16:45
- ・開催形式：対面、若手の会との共催
- ・参加者：21名
- ・プログラム
話題提供
「西日本豪雨災害（平成30年7月）の対応事例」 大門 千明氏（（株）ダイチ技研）
【トピック】能登半島地震の話 田近 淳氏（（株）ジオテック）
総合討論（フリートーキング形式）

②若手の会・シニア会技術交流会

内容等は若手の会の報告に記載済みのため割愛

(10)若手の会の活動

①技術普及部との共催

内容等は技術普及部の報告に記載済みのため割愛

②若手の会・シニア会技術交流会

- ・日時：2024年11月22日 14:00～16:50
- ・開催形式：対面
- ・参加者：20名
- ・話題提供
「令和6年度 能登半島地震による地すべり災害について」
高橋 拓也氏（（株）地圏総合コンサルタント）
- ・講演
「地すべり等防止法の周辺と農林地質技術者」 伊東 佳彦氏（北電総合設計株式会社）

(11)対外(北海道地すべり学会)協力

①企画委員会（普及活動）

○岩見沢農業高校の出前授業

- ・日時：2024年5月31日 9:00～16:45
- ・場所：当別町、月形町（道民の森神居尻地区、国道451号、当別川流域）

- ・対象：北海道岩見沢農業高等学校森林科学科3年生31名、教員2名
- ・案内者：中鶴 真也 氏（北海道土木設計(株)）
溝上 雅宏 氏（明治コンサルタント(株)）
宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
渡邊 司 氏（ホクボウコンサルタント）
清水 順二 氏（(株)ジオプラ）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）
- ・内容：現地に実際に施工されている治山施設（法枠工、床固工、雪崩防止柵、スリットダム）を見学し、治山事業の重要性、工事の種類、設計の考え方を学習した。地すべり現象による路面変状を観察し、地すべり発生メカニズムを学習した。地すべり現象による地形変状を観察し、地すべり対策工施工箇所を2箇所（①杭工、アンカー工+擁壁工、②集水井工+杭工）を見学した。新第三紀の堆積岩と第四紀の段丘堆積物の露頭を見学し、当別川流域の地質、地形の成り立ちを学習した。

○山地災害防止キャンペーンパネル展

- ・日時：2024年6月10日～11日
- ・場所：北海道庁1Fロビー 道政広報コーナー
- ・主催者：北海道水産林務部林務局治山課
- ・参加者：164名
- ・内容：林野庁が都道府県及び市町村と一体となって一般市民の防災意識の高揚に資するために行っている山地災害防止キャンペーン活動の一環として、地すべり模型の展示実演と土砂災害のDVD上映を行った。

○地すべり模型の出張展示実演「北海道森林土木設計協会30周年記念イベント」

- ・日時：2024年8月2日～3日
- ・場所：札幌駅前地下広場 地下歩行空間チ・カ・ホ 北大通交差点西広場（西）
- ・主催：北海道森林土木設計協会
- ・後援：北海道水産林務部
- ・観覧者：128名
- ・説明者：石田 博英 氏（防災地質工業(株)）
沼田 寛 氏（(株)ノース技研）
伊藤 浩介 氏（国土防災技術北海道(株)）
柴田 純 氏（(株)シビテック）
高橋 拓也 氏（(株)地圏総合コンサルタント）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）
- ・内容：1回10分程度の展示実演を43回行った。

○地すべり模型の出張展示実演「ジオ・フェスティバル in Sapporo 2024」

- ・日時：2024年10月5日
- ・場所：札幌市青少年科学館
- ・主催：ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会
- ・共催：札幌市青少年科学館、北翔大学
- ・観覧者：129名
- ・説明者：沼田 寛 氏（(株)ノース技研）
宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
伊藤 浩介 氏（国土防災技術北海道(株)）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）
- ・内容：1回10分程度の展示実演を29回、土砂災害のDVD上映、グラウンドアンカーの展示

②研究調査委員会

○第1回委員会

- ・日時：2025年3月6日
- ・開催形式：ハイブリッド
- ・参加者：対面17名、オンライン31名
- ・話題提供：
 - 「平成30年北海道胆振東部地震によって発生した降下火砕堆積物からなる自然斜面の崩壊とその工学的考察」
川村 志麻 氏（室蘭工業大学）
 - 「風化によるカーテン状ハロイサイトバンドの形成機構：水文過程と鉄の挙動に着目して」
福井 宏和 氏（北海道大学）
- ・討論：「テフラ層すべりのメカニズムについて」

③技術委員会

○第1回委員会

- ・日時：2024年9月27日 13:00～17:00
- ・開催形式：ハイブリッド
- ・参加者：対面27名、オンライン24名
- ・話題提供：「グラウンドアンカーの健全度調査および維持補修」
今井 雅史 氏（KJS エンジニアリング(株)）
「地すべり地形判読の基礎技術とAIを活用した地形判読の取り組みについて」
檜垣 大助 氏、古木 宏和 氏（日本工営(株)）
- ・技術委員会活動：話題提供の選定、抑止杭WG（抑止杭の設計・施工に生じる課題の意見交換）

○第2回委員会

- ・日時：2025年1月29日 13:30～17:00
- ・開催形式：対面
- ・参加者：41名
- ・話題提供：「GNSS衛星などによる斜面変位計測の事例紹介」 及川 典生 氏（国際航業(株)）
「地すべりブロックという用語について」 田近 淳 氏（(株)ジオテック）

12. 東北支部

(1)支部総会

- ① 日時：2024年5月17日 14:00～14:45
- ② 場所：トークネットホール仙台（仙台市民会館）（ハイブリッド開催）
- ③ 参加者：会場出席45名（正会員）リモート出席8名 委任状45名 計98名
- ④ 意見交換会：TKP ガーデンシティ仙台勾当台

(2)会議等

*2024年度役員会及び幹事会は宮城大会開催に係る大会幹事会と兼ねて実施した。

① 役員会・幹事会

- ・第1回（2024年5月17日 33名）
宮城大会の事業計画に関する協議（実施計画書・予算・新技術セッション・意見交換会・広報・各種応募状況など）、2024年度事業計画案の策定
- ・第2回（2024年7月16日 26名）
宮城大会の実施要領に関する協議、研修会の実施計画など事業の実施要領の確認ほか
- ・第3回（2024年8月30日 30名）

宮城大会直前打合せ →第 2 回宮城大会実行委員会、研修会の実施計画など事業の実施要領の確認ほか

- ・第 4 回幹事会（2024 年 9 月 3 日 7 名）

仙台国際センター最終打合せ

- ・第 5 回幹事会（2024 年 12 月 5 日 14 名）

第 3 回宮城大会実行委員会 →宮城大会開催報告及び決算見込みの報告ほか

- ・第 6 回幹事会（2025 年 3 月 19 日 23 名） *兼ねて、第 1 回運営委員会

② 運営委員会

- ・第 1 回運営委員会（2025 年 3 月 19 日 東北支部事務局会議室・リモート 計 23 名）
2024 年度研究発表会及び現地見学会開催の開催報告 2024 年度事業実行状況の報告、
2025 年度事業計画に関する方針説明について、2025 年度総会議案書の審議

(3) 講演会等

① 第 1 回講演会 * (一社)建設コンサルタント協会 CPD 認定 2.00 単位

- ・開催日時 : 2024 年 5 月 17 日 15:00~17:00
- ・開催場所 : トークネットホール仙台 (仙台市民会館) B1 展示室 (ハイブリッド開催)
- ・参加人数 : 正会員および支部協賛企業ほか 177 名
- ・演題及び講師

「リアルタイム地震動予測と構造ヘルスマモニタリング」

山形大学工学部 建築・デザイン学科教授 三辻和弥 氏

「すべり面抵抗力を粘性モデルで評価する -複雑な地すべり挙動を理解するための試み-」

日本大学工学部 土木工学科専任講師 梅村 順 氏

② 第 2 回講演会 * (一社)建設コンサルタント協会 CPD 認定 2.75 単位

- ・開催日時 : 2024 年 8 月 30 日 13:30~16:30
- ・開催場所 : 東北支部会議室 (ハイブリッド開催)
- ・参加人数 : 正会員および支部協賛企業ほか 計 112 名
- ・演題及び講師

「東北支部 地下水に関するワーキング (勉強会) 開設に際して」 事業企画委員 渡辺 修 氏

「1 本のボアホールから -既存観測孔でできること-」 元山形大学 奥山 武彦 氏

「地すべりに関わる地下水、未解決で興味深い話題」

新潟大学災害・復興科学研究所 渡部 直喜 氏

「新潟県伏野地すべりにおける間隙水圧計設置の取り組みと観測事例」

国土防災技術株式会社 土佐 信一 氏

③ 第 3 回講演会 * (一社)建設コンサルタント協会 CPD 認定 2.66 単位

- ・共 催 : 東北大学災害科学国際研究所・防災科学技術研究所
- ・後 援 : (公社)地盤工学会東北支部
- ・開催日時 : 2025 年 3 月 14 日 14:00~17:00
- ・開催場所 : 東北大学災害科学国際研究所 2F S203 (演習室 A) (ハイブリッド開催)
- ・参加人数 : 日本地すべり学会正会員及び支部協賛企業、地盤工学会会員 計 152 名
- ・演題及び講師

「大型斜面模型実験を用いた降雨による不飽和浸透と

地下水位挙動が崩壊時の流動性に与える影響」

防災科学技術研究所 上席研究員 酒井 直樹 氏

「斜面安定問題において特殊土は何が特殊なのか」

東北大学 准教授 加村 晃良

氏

「砂を用いた円柱カラム土槽における降雨浸透挙動の実験的研究」

防災科学技術研究所 主任研究員 石澤 友浩 氏

「浅水長波型土石流解析のためのせん断抵抗力モデルの開発」東北大学 助教 野村 怜佳

氏

「数値解析のためのベンチマーク問題の創出」

東北大学 准教授 森口 周二

氏

(4) 巡検・災害調査活動

① 山形県 2024 年 7 月豪雨災害における現地調査（砂防学会東北支部と共催）

- ・実施日 2024 年 11 月 8 日～9 日
- ・調査地 山形県酒田市 荒瀬川流域
- ・参加者 2 名

② 「第 63 回研究発表会及び現地見学会」における現地見学会の運営

- ・開催日 2024 年 9 月 20 日
- ・見学コース及び参加者 ※参加者はスタッフ含む
 - A コース：荒砥沢地すべり・栗駒山麓ジオパーク見学コース 参加者：49 名
 - B コース：東日本大震災伝承施設見学コース 参加者：30 名
 - C コース：丸森町豪雨災害・津波災害からの復旧復興コース 参加者：41 名

(5) 研修活動

次世代の若手技術者への技術継承と若手同士の人脈形成を目的に、本部の若手対策事業費を活用し、演習を含むグループワークを取り入れた実践的な研修を実施した。また、本研修会は今後の支部活動の活性化や強靱化に寄与することも目的としている。

- ・第 1 回 2024 年 7 月 5 日 「地すべり地形の判読と評価」 参加 31 名
講師 山形大学名誉教授 八木 浩司 氏
- ・第 2 回 2024 年 10 月 8 日 「空中写真による地すべり危険度評価」 参加 14 名
講師 (株) 東北開発コンサルタント 池田 浩二 氏
- ・第 3 回 2024 年 11 月 26 日 「数値地形情報による地すべり評価への展開」 参加 15 名
講師 奥山ボーリング (株) 林 一成 氏

(6) 広報活動等

- ① 支部だより第 35 号の発行（2024 年 12 月 20 日） 印刷部数 247 部、発送部数 247 部
- ② 支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載など
- ③ 講師派遣

- ・(一社) 秋田県地質調査業協会「令和 6 年度地質調査研修」(2024 年 7 月 9 日)

奥山ボーリング(株) 藤井 登

氏

④ 関連団体への後援・協賛

- ・(公社) 土木学会「令和 6 年度全国大会 第 79 回年次学術講演会」(2024 年 9 月 2 日～6 日)
- ・(一社) 地盤品質判定士会東北支部 「盛土規制法に伴う問題盛土地の見学および検討会」

(2024年10月24日)

- ・(一社) 斜面防災対策技術協会東北支部「山が動く」寄稿

13. 新潟支部

(1) 2024年度支部総会・特別講演会

2024年5月24日(金)、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて開催(対面・オンライン併用)
本シンポジウムは「若手育成」をテーマとする発表会形式とした。シンポジウムは2部構成で行われ、
第1部は新潟支部の2023年度学生・院生対象研究助成に採択された若手による成果報告、第2部は
民間企業の若手とベテランがタッグを組み、地すべり災害に関する調査や調査・計測技術、対策工の
維持管理・検査技術に関する事例発表を行った。

参加者は対面・オンラインを合わせて106名。

(2) 新潟県地すべり災害記録CD改訂版の出版

2024年5月24日、2024年版を出版(2023年に発生した地すべり災害記録を追加)

(3) 現地見学会

2024年11月7日(木)に新潟県糸魚川市にて開催(日本応用地質学会北陸支部との共催)

2023年4月に糸魚川市広田地区で発生した地すべり(広田地すべり)の現地見学を行い、昼食後、糸
魚川市のふれあいセンター・ビーチホール「まがたま」にて検討会を行った。

参加者は25名

(4) 新潟県地すべり対策研究会への参加

2025年3月21日、技術部会及び総会がオンラインで開催された
支部からの参加者は5名

(5) 新潟支部ホームページの管理・運営

支部の活動、行事、出版物等の情報を発信

(6) 会議記録

2024年度は幹事会としての会議は開催していない

必要に応じてメーリングリストを利用した書面審議(1回)、情報共有及び意見交換を行った

14. 関東支部

(1) 総会・シンポジウム

2024年5月9日11:00~11:30

日比谷図書文化館(地下一階)大ホール

(東京都千代田区日比谷公園1-4)

出席者数28名 委任状数86名 計114名(定数90名以上)

総会終了後、シンポジウム「ベテラン技術者の苦労話とその教訓」開催:参加者67名

- ・地すべり解析測線設定に問題があった事例

上野雄一(日特建設株式会社・技師長)

- ・事例にみる地すべり調査のヒントとポイント

鴨井幸彦(株式会社 村尾技建・技師長)

- ・X世代技術者の地すべり判読とこれから

下河敏彦(株式会社 環境地質・営業企画・地形診断部長)

- ・総合討論(コーディネータ：新井場公德・関東支部支部長)
- ・概要集発行

シンポジウム終了後、意見交換会を開催：参加者 36 名

(2) 現地検討会

テーマ：「上信越自動車道 北野牧工事及び蓬平工事」

期 日：2024 年 11 月 8 日

場 所：群馬県安中市松井田町北野牧（北野牧工事）
長野県埴科郡坂城町（蓬平工事）

協 力：東日本高速道路（株） 関東支社 長野工事事務所

参加者：17 名（有料）

内 容：落石対策や地すべり対策等の施工現場を見学

(3) (一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業

名 称：合同見学会「金崎地すべりの見学」

期 日：2024 年 12 月 5 日

場 所：埼玉県皆野町 金崎地すべり

主 催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部・(一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部

協 力：埼玉県秩父県土整備事務所

参加者：39 名（無料）

内 容：金崎地すべりの概要と既往対策施設及び施工中の対策工等を見学

(4) 若手対策事業

若手技術者への技術継承を目的として、ベテラン技術者を講師に招き次のテーマで開催を企画検討した。

「Technical Judge（技術者の判断）」

「作業仮説が外れた際のリカバリー」

開催日は、2025 年 6 月を予定し、計画・検討中

(5) 運営委員会・幹事会

① 運営委員会

- ・第 1 回 2024 年 4 月 10 日 オンライン会議 出席者 13 名

② 幹事会

- ・第 1 回 2024 年 4 月 9 日 オンライン会議 出席者 17 名
- ・第 2 回 2024 年 7 月 16 日 消防研究センター 出席者 11 名
- ・第 3 回 2024 年 9 月 18 日 宮城大会会議室 出席者 19 名
- ・第 4 回 2024 年 12 月 13 日 高崎駅前貸会議室 出席者 13 名

(6) 広報活動等

- ・関東支部 Web ページ更新

15. 中部支部

(1) 支部運営委員会

2024 年 4 月 19 日

- ・場 所：TOiGO 長野市生涯学習センター(長野市)
- ・出席者：14 名

(2) 支部総会及び特別講演

2024年4月19日

- ・場 所：TOiGO 長野市生涯学習センター(長野市)
- ・講 演：「大地震はどこでどう起きる？なぜ？いつ？」
～能登半島地震と北信越地域の地震テクトニクス～
富山大学 名誉教授 竹内章 氏
- ・参加者：102名

(3) シンポジウム

2024年11月8日

- ・場 所：TOiGO 長野市生涯学習センター(長野市)、オンライン
- ・テ ー マ：能登半島地震 地震後の経過と事業について
- ・基調講演：能登半島地震による土砂災害とその対応
石川県 石川土木総合事務所 所長 西道正浩 氏
前 石川県土木部次長兼砂防課長
前 日本地すべり学会中部支部副幹事長
- ・講 演 1：能登半島地震後の現状と地すべり学会本部の動きについて
日本地すべり学会中部支部 支部長 堤 大三 氏
- ・講 演 2：能登半島地震災害後に発生した斜面変動の紹介
国土防災技術株式会社 福井支店 銭谷聡 氏
- ・講 演 3：能登半島地震発災後の初動対応について
日本工営株式会社 北陸事務所 法水哲 氏
- ・パネルディスカッション：
能登半島地震 大地震における初動調査のあり方と復旧への課題について
パネラー
日本地すべり学会中部支部 支部長 堤 大三 氏
石川県 石川土木総合事務所 所長 西道正浩 氏
国土防災技術株式会社 福井支店 銭谷聡 氏
日本工営株式会社 北陸事務所 法水哲 氏
コーディネーター
日本地すべり学会副会長 飯沼達夫 氏
- ・参 加 者：135名(会場参加者64名、オンライン参加者71名)

(4) アウトリーチ活動

① 「環境防災学～地すべりってなに？～」への講師派遣

2024年11月19日 「地すべり現象とは」、「地すべり対策事業について」、「仕事紹介」等

2024年11月26日 「地形の読み取り方(グループワーク)」、「地すべり学会の活動紹介」等

- ・場 所：長野工業高等専門学校(長野県長野市)
- ・出 席 者：8名(講師7名、運営スタッフ1名)
- ・参 加 者：25名(長野工業高等専門学校 先生1名、学生24名)

(5) 中部支部ニュース発行

2025年3月31日

(6) 幹事会

2024年4月12日：長野市生涯学習センター(出席者20名 ※オンライン参加者3名を含む)

2024年8月2日：長野市生涯学習センター(出席者24名 ※オンライン参加者6名を含む)

2024年10月25日：長野市生涯学習センター(出席者21名 ※オンライン参加者2名を含む)

2025年1月10日：長野市生涯学習センター(出席者23名 ※オンライン参加者8名を含む)
※ 補足 2024年8月29日～30日に計画した「現地見学会・検討会」は荒天のため中止

16. 関西支部

(1) 第1回運営委員会

- ① 日時：2024年4月4日
- ② 場所：京都大学防災研究所E417D+Zoomによるオンライン開催
- ③ 出席者：15名 委任状：0名
- ④ 議事：

報告

2023年度第2回運営委員会議事録、2023年度支部事業報告、会誌「らんどすらいど」No. 39、
協賛会員名簿、2023年度支部決算報告

議題

2024年度事業計画、2024年度予算計画、運営委員選挙の管理委員の選出、その他

(2) 技術研究集会<萌芽的技術研究の部>開催

- ① 日時：2024年7月4日9:50～12:45
- ② 場所：大阪ドーンセンター
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部
- ④ 参加者：25名程度
- ⑤ 講演者とタイトル

・掘削斜面から採取された細粒度のクリープ変形特性

赤井碧宇（高知大学）

・砂成分および流下距離が土石流先頭部粒度偏析に及ぼす影響

虫明寛人（復建調査設計（株））

・Dynamic Analysis of Multi-Block Rockfall Focusing on Coefficient of Restitution
Based on 3D Discontinuous Deformation Analysis

李長澤・王功輝（京都大学）

・大規模崩壊地形形成後の地形変化に関するUAV写真測量を用いた追跡調査

渡壁卓磨・大澤光（森林総合研究所）

・模型斜面実験における変位データを用いた崩壊予測指標の検討

田村優人（高知大学）

・花崗岩地域における地すべり性崩壊の地形・地質学的検討

佐藤達樹（国土防災技術（株））

・呉高専での防災教育について

松本京之助（呉工業高等専門学校）

・微動アレイ探査を用いた活断層調査

美馬健二（太田ジオリサーチ）

・総合討論「若手が夢想する新技術」

司会：中井真司（復建調査設計（株））、パネリスト：講演者

(3) 技術研究集会<実践的技術研究の部>開催

- ① 日時：2024年7月4日14:00～16:50
- ② 場所：大阪ドーンセンターおよびZoomによるオンライン開催
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部
- ④ 後援：(公社)砂防学会関西支部、(公社)地盤工学会関西支部
- ⑤ 参加者：会場参加36名、Web参加284名(計320名)
- ⑥ 講演者とタイトル

〈基調講演〉

- ・遺跡調査から土地の履歴を探る方法と実践 奈良文化財研究所 金田 明大

〈技術報告〉

- ・3Dモデルソフトによる景観検討比較 三浦一宏(復建調査設計(株))
- ・長野県辰野町における住民参加型の防災マップ作成の取り組み 松澤真(京都大学)
- ・稠密地震観測による知見の斜面への応用可能性
土井一生・松浦純生(京都大学)・大澤光・岡本隆(森林総研)・土佐信一・柴崎達也(国土防災技術((株))・岡庭信幸・大石怜生・澤田麻沙代(京都大学)

〈総合討論〉

- ・新技術が革新する地すべり防災

司会：太田英将(太田ジオリサーチ)、パネリスト：講演者

(4) 関西支部 総会

- ② 日時：2024年4月19日～4月25日
- ③ 開催方法：メール審議
- ④ 議事
報告

2023年度活動報告、2023年度決算報告、2024年度活動計画、2024年度予算、その他

(5) 第2回運営委員会

- ① 日時：2024年11月1日
- ② 場所：京都大学防災研究所 S207D+Zoomによるオンラインのハイブリッド形式
- ③ 出席者：17名 委任状4名
- ④ 議事

報告

2024年度第1回運営委員会議事録、2024年度支部事業報告、行事関係会計、2024年度今後の事業予定

議題

2025年度支部行事について、その他

(6) 2024年度(公社)日本地すべり学会関西支部現地討論会

「1974年小豆島災害から50年、土石流災害とキャップロック地域の地質を学ぶ」

- ① 見学会日時：2024年10月24日・25日
- ② 見学場所：香川県小豆島町神浦地区・谷尻地区・水木地区・橘地区・神懸通地区・内海ダム
中山千枚田・土庄町小江
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部
- ④ 見学会参加者：26名

(7) 「らんどすらいど40」会誌の発行・発送

①日時：2025年2月6日

②執筆者とタイトル

斜面工学に関わる「ドボク模型」 藤井俊逸（株式会社藤井基礎設計事務所）

微動アレイ探査を用いた断層位置の推定 美馬健二（有限会社太田ジオリサーチ）

「過去の南海トラフ巨大地震とその複合災害」勉強会 開催報告

山崎新太郎（京都大学防災研究所）

南海トラフ地震と秩父帯崩壊地の勉強会に参加して

高谷 精二

令和6年度現地討論会「1974年小豆島災害から50年、

土石流災害とキャップロック地域の地質を学ぶ」開催報告

山崎新太郎（京都大学防災研究所）

編集後記

山崎新太郎（京都大学防災研究所）

17. 九州支部

(1) 支部幹事会

① 第一回

開催日：2024年4月17日 13:30～15:30

開催場所：TKP 博多前シティセンターカンファレンス 6

参加者：出席 11名，委任 44名（幹事 計 55名）

② 第二回

開催日：2024年6月6日 10:00～11:30

開催場所：ホテル別府パストラル

参加者：出席 13名，委任 42名（幹事 計 55名）

(2) 支部総会

開催日：2024年5月13日（月）～5月27日（月）

開催形態：Web で期間内に投票する形態

参加者：56名

議 題

第1号議案 2024年度支部役員選出

第2号議案 2023年度決算報告および監査報告

第3号議案 2024年度予算

第4号議案 2024, 2025, 2026年度の総会・講演会開催地

第5号議案 活動方針について

その他

報告・懇談事項

(3) 支部学術講演会、意見交換会

① 支部学術講演会

日 時：2024年6月6日（木） 13:00～17:30

開催場所：ホテル別府パストラル

参加者：47名

基調講演 2件

川畑大作（（国研）産業技術総合研究所 主任研究員）

高野剛（大分県 砂防課長）

一般講演 8件

総合討論

②意見交換会

日時：2024年6月6日（木） 18:00～20:00

開催場所：ホテル別府パストラル

参加者：27名

(4)支部現地検討会

日時：2024年6月7日（金）

開催場所：大分県「日田市小野地区および別府市の地すべり」

参加者：18名

(5)支部講習会

支部技術検討会（事務局：沖縄会）

日時：2024年11月13日（水）13:30～17:20

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加者：69名

基調講演 2件

盛小禰 太一（沖縄県土木建築部）

松田 広野（沖縄県農林水産部）

一般発表 6件

総合討論

(6)九州支部ホームページの管理・運営

・支部役員・幹事の更新、支部活動・行事のお知らせ、他学会・協会の行事等の情報共有

(7)アウトリーチと若手会員活性化に関する活動

- ・地すべり・斜面防災におけるアウトリーチ、若手会員に関する活動について、担当の香月副支部長と支部事務局で打ち合わせを行った
- ・第二回支部幹事会で潜在的若手会員への学会活動参加を促す活動を行うこととした
- ・支部現地検討会等で若手技術者を育成する仕組みを検討した

(8)共催・後援事業

①2024年度 現場見学会（第14回）

共催：（一社）斜面防災対策技術協会九州支部、九州地区地すべり防止工事士会

開催日：2024年11月1日

②先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024

主催：先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024 開催委員会（熊本県・熊本市・一般社団法人地域産業活性協会）

後援：（公社）日本地すべり学会九州支部ほか

開催日：2024年11月21日-11月22日

会場：グランメッセ熊本

③第43回地質調査総合センターシンポジウム「地質を用いた斜面災害リスク評価」

主催：（国研）産業技術総合研究所地質調査総合センター

共催：産業技術連携推進会議知的基礎部会地質分科会

後援：（公社）日本地すべり学会九州支部ほか

開催日：2024年12月20日

会場：アクロス福岡

18. 会員数対策

(1) 若手対策 WG

◆地すべり学会 BIM/CIM ネットワーク（2025年3月31日現在）

参加者数 141名（昨年比+21名）

オーガナイザー 15名

アドバイザー 2名

事務局 3名

【オーガナイザー・ミーティング】

- ・第12回 2024年4月26日（Web開催）（参加；12名）

議題；①名簿の確認について

②第6回オンライン会合について

③今後の実施方針について

④その他

- ・第13回 2024年6月5日（Web開催）（参加；12名）

議題；①新オーガナイザーの紹介

②第6回オンライン会合について（継続）

③今後の実施方針について（継続）

④その他

- ・第14回 2024年8月1日（Web開催）（参加；13名）

議題；①2024-2025年度の運営体制

②今後の実施方針

③その他

- ・第15回 2024年10月17日（Web開催）（参加；12名）

議題；①今年度の活動内容（オンライン会合、対面会合）

②各活動の役割分担

③その他

- ・第16回 2025年1月17日（Web開催）（参加；10名）

議題；①今年度の活動内容

②各活動の役割分担

③その他

- ・第17回 2025年3月12日（Web開催）（参加；8名）

議題；①由比地すべり現地見学会について

⇒開催の決定、実施概要の検討、関係者との調整、準備スケジュール他

②その他

【オンライン会合】

- ・第6回オンライン会合 2024年6月26日（Web開催）

講演；①BIM/CIMモデルを活用した応急横ボーリングの配置計画手法について

（日本基礎技術㈱ 今江氏）

②地すべりCIMの概要と3次元モデルの作成・活用について

（日本工営㈱ 島田氏）

③質疑応答

参加；48名

【勉強会】

- ・地すべり3次元モデリング勉強会 2025年1月20日～21日（対面開催、於；土木研究所）

(1日目)

- ✓開会挨拶&趣旨説明(オーガナイザー:日本工営(株) 山口氏)
 - ✓モデリング勉強会(導入編)
 - 地すべり防止施設・機構解析のBIM/CIMモデル(オーガナイザー:日本工営(株) 畠田氏)
 - 地すべり災害対応のBIM/CIMモデル(オーガナイザー:(国研)土木研究所 遠藤氏)
 - ✓地すべり対策におけるブロック設定の考え方(アドバイザー:(国研)土木研究所 杉本氏)
- (2日目)
- ✓モデリング勉強会(活用編)
 - 地形モデル・すべり面モデル作成デモンストレーション(オーガナイザー:川崎地質(株) 橋本氏、日本工営(株) 畠田氏)
 - ✓意見交換(4班に分かれての意見交換と全体での意見交換)
 - ✓総括(アドバイザー:(国研)土木研究所 杉本氏)
 - ✓閉会挨拶(事務局:川崎地質(株) 加藤氏)
- 参加:35名

【その他】

- ・学会誌への投稿
 - タイトル 「地すべりCIMの実習および現地研修会の開催」
 - 執筆者名 地すべり学会BIM/CIMネットワーク オーガナイザー
 - 筆頭著者 国土交通省 竹下氏
 - 投稿区分 フォーラム

◆若手対策事業

各支部が主催する行事として実施(各支部報告参照)

(2)シニア対策WG

- ① 春期談話会 2024年5月25日
講師:岩尾雄四郎 佐賀大学名誉教授、(株)バイオテックス
「ウズベキスタンの地形と風物」
:上野将司 応用地質(株)
「キルギスの草原と湖と氷河」
参加者数:14名(講師は除く)
- ② シニア会運営打ち合せ 2024年9月19日
討議内容:秋期巡検の候補地について
若手との交流について
参加者数:10名
- ③ 秋期巡検 2024年11月19日
案内役:丸井英明 新潟大学名誉教授
:井藤嘉教 (株)興和
巡検地:「新潟県中越地震発生から20年後の現地状況」
主なコース:長岡駅→(昼食)→やまこし復興交流館おらたる→寺野地区→南平池谷地区→木籠地区の埋没人家→東竹沢→長岡駅
参加者数:10名(案内役は除く)

19. アウトリーチ

(1) 前任担当理事からの引継ぎ

2024年6月にアウトリーチ担当理事の交代に伴い、前任担当理事から前年度までの活動状況について情報収集を行った(2025年2月4日)。2023年5月に開催された担当理事と各支部の担当者によるアウトリーチ検討連絡会において過去2年間の活動実績や実施計画などを整理した状況等について確認した。

(2) 次年度の活動方針の検討

担当理事で今後のアウトリーチ活動の活性化に向けた意見交換を行い、前回会議以降の活動状況を振り返る連絡会を次年度も開催し、今後優先的に取り組む活動内容について協議した。

事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特にないため、附属明細書は作成しない。